

キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

第六部 罪論

● 20章 罪の性質と源

● 21章 罪の結果

● 22章 罪の程度

1. 罪の範囲

1. 旧約聖書の教え

1. 罪の普遍性
2. 断定的陳述
3. 完全無欠の人でさえ

2. 新約聖書の教え

1. 正しい人はひとりもない
2. あらゆる箇所で仮定されている
3. すべての人は罪の刑罰に従属している

2. 罪の徹底性

1. 旧約聖書の教え

1. 状態としてよりも行為としての罪
2. 霊的な病としての罪
3. 内的状態としての罪

2. 新約聖書の教え

1. イエス: 怒りと情欲について
2. パウロの告白

3. 罪と全的墮落

1. 「全的」の意味
2. 「全的墮落」が意味していないもの
3. 「全的墮落」が意味しているもの

3. 原罪の諸理論

1. ペラギウス主義

1. 「腐敗」なし
2. 「罪責」なし

2. アルミニウス主義

1. 「腐敗」あり
2. 「罪責」なし

3. カルヴァン主義

1. 「腐敗」あり
2. 「罪責」あり

4. アダムと私たちの関係

1. 連帯首長説 - 靈魂創造説 - 代表として契約
2. 自然首長説 - 靈魂遺伝説 - 有機的伝達

4. 原罪：聖書的・今日的モデル

1. アダムの罪とすべての人の罪の関係
2. すべての人は個人的に罪を犯すゆえに、罪責がある
3. 「罪を犯した」という言葉の時制
4. アオリスト(不定過去)：神に対するただ一度の永遠の反逆
5. 「代表としての契約」ではなく、「最初の先祖からの遺伝」によって
6. 追加的課題 - 幼児や子供の死
7. 主イエスとダビデの言及
8. 道徳的・靈的事柄に対する責任能力の年齢
9. アダムとキリストの平衡描写
10. 「キリストの義」の転嫁 - 意思的決断の必要、「アダムの罪」の転嫁 - 眞の道徳的決断の時期
11. 無垢な時期が終わるとき、最初の罪において「アダムの罪」を批准する